

令和7年度 障がい者生活ニーズ実態調査 調査結果

資料 1

◆回答者の属性（配付ベース）

身体	知的	精神	難病	発達	総計
1,440	736	545	151	98	2,970

◆回答者の属性（回答内容より集計）

身体	知的	精神	難病	発達	高次脳
1,692	1,053	823	617	626	132

身体： 問33にて1級～6級と回答した人数
知的： 問35にてA、B1、B2と回答した人数
精神： 問36にて1～3級、問37にて自立支援医療を
利用していると回答した人数（重複除く）
難病： 問40にて回答した人数
発達： 問38にて1～3と回答した人数
高次脳： 問39にて1～4と回答した人数

◆あなたのこと（基本的事項）〔問1・2〕

問1 調査票の記入者	身体		知的		精神		難病		発達		総計	
	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント
本人	622	43.2%	123	16.7%	330	60.6%	101	66.9%	24	24.5%	1,200	40.4%
家族、介助者等（本人に聞いて代わりに記入）	231	16.0%	143	19.4%	40	7.3%	15	9.9%	9	9.2%	438	14.7%
家族、介助者等（家族等の考えで記入）	282	19.6%	273	37.1%	26	4.8%	11	7.3%	52	53.1%	644	21.7%
不正回答	2	0.1%	4	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	0.2%
回答なし	303	21.0%	193	26.2%	149	27.3%	24	15.9%	13	13.3%	682	23.0%
総計	1,440	100.0%	736	100.0%	545	100.0%	151	100.0%	98	100.0%	2,970	100.0%

< 参考 >

問2-1 住んでいる市町村	身体		知的		精神		難病		発達		総計	
	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント
大阪市（大阪市）	400	27.8%	223	30.3%	156	28.6%	18	11.9%	5	5.1%	802	27.0%
豊能北（池田市、箕面市、豊能町、能勢町）	49	3.4%	25	3.4%	19	3.5%	11	7.3%	13	13.3%	117	3.9%
豊能豊中（豊中市）	85	5.9%	29	3.9%	24	4.4%	4	2.6%	2	2.0%	144	4.8%
豊能吹田（吹田市）	57	4.0%	26	3.5%	20	3.7%	9	6.0%	8	8.2%	120	4.0%
三島（茨木市、摂津市、島本町）	73	5.1%	34	4.6%	27	5.0%	15	9.9%	9	9.2%	158	5.3%
三島高槻（高槻市）	65	4.5%	39	5.3%	18	3.3%	5	3.3%	11	11.2%	138	4.6%
北河内枚方（枚方市）	64	4.4%	33	4.5%	17	3.1%	7	4.6%	9	9.2%	130	4.4%
北河内寝屋川（寝屋川市）	28	1.9%	15	2.0%	15	2.8%	3	2.0%	4	4.1%	65	2.2%
北河内西（守口市、門真市）	26	1.8%	20	2.7%	9	1.7%	3	2.0%	1	1.0%	59	2.0%
北河内東（大東市、四條畷市、交野市）	41	2.8%	25	3.4%	13	2.4%	12	7.9%	4	4.1%	95	3.2%
中河内八尾（八尾市）	43	3.0%	15	2.0%	12	2.2%	3	2.0%	2	2.0%	75	2.5%
中河内東大阪（東大阪市）	83	5.8%	37	5.0%	26	4.8%	0	0.0%	3	3.1%	149	5.0%
南河内北（松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市）	53	3.7%	27	3.7%	24	4.4%	8	5.3%	3	3.1%	115	3.9%
南河内南（富田林市、河内長野市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村）	49	3.4%	33	4.5%	23	4.2%	7	4.6%	8	8.2%	120	4.0%
堺市（堺市）	136	9.4%	67	9.1%	40	7.3%	12	7.9%	5	5.1%	260	8.8%
泉州北（泉大津市、和泉市、高石市、忠岡町）	53	3.7%	24	3.3%	25	4.6%	6	4.0%	6	6.1%	114	3.8%
泉州中（岸和田市、貝塚市）	38	2.6%	22	3.0%	24	4.4%	12	7.9%	2	2.0%	98	3.3%
泉州南（泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町）	58	4.0%	18	2.4%	32	5.9%	8	5.3%	3	3.1%	119	4.0%
不正回答	28	1.9%	9	1.2%	6	1.1%	4	2.6%	0	0.0%	47	1.6%
回答なし	11	0.8%	15	2.0%	15	2.8%	4	2.6%	0	0.0%	45	1.5%
総計	1,440	100.0%	736	100.0%	545	100.0%	151	100.0%	98	100.0%	2,970	100.0%

府の人口割合
（R6.10時点）

< 参考 >

問2-2 年齢層	身体		知的		精神		難病		発達		総計	
	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント
10歳未満	168	11.7%	120	16.3%	4	0.7%	4	2.6%	51	52.0%	347	11.7%
10代	169	11.7%	171	23.2%	10	1.8%	5	3.3%	8	8.2%	363	12.2%
20代	23	1.6%	96	13.0%	50	9.2%	9	6.0%	6	6.1%	184	6.2%
30代	26	1.8%	96	13.0%	70	12.8%	6	4.0%	13	13.3%	211	7.1%
40代	48	3.3%	84	11.4%	96	17.6%	17	11.3%	5	5.1%	250	8.4%
50代	108	7.5%	98	13.3%	139	25.5%	20	13.2%	2	2.0%	367	12.4%
60代	175	12.2%	33	4.5%	96	17.6%	27	17.9%	1	1.0%	332	11.2%
70代	309	21.5%	12	1.6%	50	9.2%	28	18.5%	0	0.0%	399	13.4%
80代	310	21.5%	1	0.1%	18	3.3%	22	14.6%	0	0.0%	351	11.8%
90代	71	4.9%	1	0.1%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	74	2.5%
100歳以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
不正回答	1	0.1%	2	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.1%
回答なし	32	2.2%	22	3.0%	10	1.8%	13	8.6%	12	12.2%	89	3.0%
総計	1,440	100.0%	736	100.0%	545	100.0%	151	100.0%	98	100.0%	2,970	100.0%

府の人口割合
（R6.10時点）

問2-3 性別	身体		知的		精神		難病		発達		総計	
	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント
男	673	46.7%	474	64.4%	214	39.3%	38	25.2%	75	76.5%	1,474	49.6%
女	740	51.4%	242	32.9%	318	58.3%	112	74.2%	21	21.4%	1,433	48.2%
その他	1	0.1%	0	0.0%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.1%
答えたくない	10	0.7%	4	0.5%	3	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	17	0.6%
不正回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
回答なし	16	1.1%	16	2.2%	8	1.5%	1	0.7%	2	2.0%	43	1.4%
総計	1,440	100.0%	736	100.0%	545	100.0%	151	100.0%	98	100.0%	2,970	100.0%

令和7年度 障がい者生活ニーズ実態調査 調査結果〔分析編〕

01■世代別の希望や困りごとへの回答状況について

本分析では、障がい種別による集計ではなく、世代別に希望や困りごとの傾向を把握することを目的とする。

そのため、回答者の年齢を子ども（18歳未満）、大人（18歳以上65歳未満）、高齢者(65歳以上)の3区分に分類する。その際、年齢が未回答の回答者は分析対象から除外し、2,485名分の回答データを元データとして用いた。

分析にあたっては、以下の3つの観点から集計を行い、世代ごとの特徴を把握する。

1.今の暮らしと希望する暮らし

2.現在および希望する平日・休日の過ごし方

3.様々な場面における困りごと

1. 今の暮らしと希望の暮らしについて

データ①：世代別×「問4 今の暮らしと希望する暮らし」※無回答を除く

			一人で暮らす	親・きょうだいと暮らす	配偶者・子どもと暮らす	友だちと暮らす	施設・病院で暮らす	その他	総計
高齢者	(65歳以上)	今の暮らし	244	26	534	6	91	14	915
			27%	3%	58%	1%	10%	2%	
		希望する暮らし	146	18	428	13	127	20	752
			19%	2%	57%	2%	17%	3%	
大人	(18歳以上65歳未満)	今の暮らし	193	411	230	14	105	42	995
			19%	41%	23%	1%	11%	4%	
		希望する暮らし	250	221	227	31	130	44	903
			28%	24%	25%	3%	14%	5%	
子ども	(18歳未満)	今の暮らし	1	473	6	0	9	1	490
			0%	97%	1%	0%	2%	0%	
		希望する暮らし	27	348	19	11	39	12	456
			6%	76%	4%	2%	9%	3%	

（参考）平成28年度調査結果			一人で暮らす	親・きょうだいと暮らす	配偶者等と暮らす	友だちと暮らす	入所施設で暮らす	病院で暮らす	総計
高齢者	(65歳以上)	今の暮らし	221	28	653	7	73	20	1,002
			22%	3%	65%	1%	7%	2%	
		希望する暮らし	133	22	483	14	136	15	803
			17%	3%	60%	2%	17%	2%	
大人	(18歳以上65歳未満)	今の暮らし	219	695	354	54	77	8	1,407
			16%	49%	25%	4%	5%	1%	
		希望する暮らし	276	323	401	121	131	10	1,262
			22%	26%	32%	10%	10%	1%	
子ども	(18歳未満)	今の暮らし	1	705	4	2	6	1	719
			0%	98%	1%	0%	1%	0%	
		希望する暮らし	45	450	65	47	25	1	633
			7%	71%	10%	7%	4%	0%	

<データ①からわかること>

○高齢者、大人、子どもいずれの世代においても、家族（親、きょうだい、配偶者、子ども）と暮らしている割合が高い。

○希望する暮らしを今の暮らしと比較すると、大人と子ども世代は「親・きょうだいと暮らす」の割合は大きく減少していることに対して、「一人で暮らす」、「配偶者・子どもと暮らす」、「友だち・グループで暮らす」の割合が増加している。

○希望する暮らしを今の暮らしと比較すると、高齢者と大人世代の「配偶者・子どもと暮らす」の割合は同等程度である。

○希望する暮らしを今の暮らしと比較すると、「施設や病院で暮らす」の割合が、すべての世代で増加しており、高齢者世代の増加割合が高い。

○前回調査と比較すると、高齢者と大人の世代において、「一人で暮らす」割合が有意に増加しており、単身生活の一般化・志向の強まりが統計的にも確認された。一方で、家族同居や施設入所については割合の変化は見られるものの、有意差が確認されない項目も多く、今後の継続的な観測が必要である。

データ②：世代別×「問9 希望する暮らしに必要なこと」（回答は複数回答可）

		グループホーム	障がいに配慮された住宅	入所施設	希望する暮らしの体験の場	日常生活の介助や支援の充実(十分なサービス)	日常生活の介助や支援の充実(お金に困らない)	お金の管理・法的手続きの支援	困りごとの相談	同じ障がいや病気の人との交流と相談	周囲の理解や配慮	総計
高齢者	(65歳以上)	56	118	166	25	215	222	50	140	52	82	1,126
		5%	10%	15%	2%	19%	20%	4%	12%	5%	7%	
大人	(18歳以上65歳未満)	86	133	104	60	177	241	150	170	66	204	1,391
		6%	10%	7%	4%	13%	17%	11%	12%	5%	15%	
子ども	(18歳未満)	65	52	74	65	120	128	47	40	44	138	773
		8%	7%	10%	8%	16%	17%	6%	5%	6%	18%	

（参考）平成28年度調査結果		グループホーム	グループホーム以外の住宅	入所施設	体験の場	日常生活の介助や支援の充実	お金の管理	交流と相談	理解や配慮	総計
高齢者	(65歳以上)	83	110	211	59	310	55	99	160	1,087
		8%	10%	19%	5%	29%	5%	9%	15%	
大人	(18歳以上65歳未満)	147	170	174	137	310	253	218	447	1,856
		8%	9%	9%	7%	17%	14%	12%	24%	
子ども	(18歳未満)	78	78	65	135	190	130	120	281	1,077
		7%	7%	6%	13%	18%	12%	11%	26%	

<データ②からわかること>

○各世代が希望する暮らしを実現するために必要なことについて見ると、全世代に共通して「日常生活の介助や支援の充実（十分なサービス）」および「日常生活の介助や支援の充実（お金に困らない）」の回答割合が高い。

○次に「周囲の理解や配慮」への回答割合が高い。

○高齢者と大人の世代は、子ども世代に比べて「困りごとの相談」の回答割合が高い。

2. 今と希望する平日と休日の過ごし方について

データ①：世代別×「問5 今の平日と休日の過ごし方」

※無回答を除く

			働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
高齢者	(65歳以上)	平日	85	0	74	31	221	520	931
			9%	0%	8%	3%	24%	56%	
		休日	5	0	5	20	235	584	849
			1%	0%	1%	2%	25%	63%	
大人	(18歳以上65歳未満)	平日	423	19	210	22	69	258	1,001
			42%	2%	21%	2%	7%	26%	
		休日	15	3	15	13	390	539	975
			2%	0%	2%	1%	40%	55%	
子ども	(18歳未満)	平日	2	433	15	3	2	31	486
			0%	89%	3%	1%	0%	6%	
		休日	3	12	38	3	114	304	474
			1%	3%	8%	1%	24%	64%	

※無回答を除く

(参考) 平成28年度調査結果			仕事をする	学校に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	外出はほとんどしない	総計
高齢者	(65歳以上)	平日	78	0	170	75	374	343	1,040
			8%	0%	16%	7%	36%	33%	
		休日	5	1	18	26	356	531	937
			1%	0%	2%	3%	38%	57%	
大人	(18歳以上65歳未満)	平日	526	55	304	48	199	279	1,411
			37%	4%	22%	3%	14%	20%	
		休日	12	5	9	16	768	566	1,376
			1%	0%	1%	1%	56%	41%	
子ども	(18歳未満)	平日	1	607	44	3	7	24	686
			0%	88%	6%	0%	1%	3%	
		休日	1	8	46	3	432	169	659
			0%	1%	7%	0%	66%	26%	

<データ①からわかること>

○全世代において、前回調査と比較すると、平日と休日ともに、「買い物・趣味・社会活動」と回答した人の割合は減少し、「生活している場所で過ごす（外出はほとんどしない）」と回答した人の割合は増加している。

○高齢者世代において、前回調査と比較すると、平日に「働く」と回答した人の割合は同等程度であるが、「通所施設に通う」と回答した人の割合は減少している。

○大人世代において、前回調査と比較すると、平日に「働く」と回答した人の割合は微増している。

○大人世代では、他の世代に比べて、休日に「買い物・趣味・社会活動」と回答した人の割合は高いが、前回調査と比較すると、「生活している場所で過ごす」と回答した人との割合が逆転している。

○また、子ども世代において、前回調査と比較すると、休日に「買い物・趣味・社会活動」と回答した人の割合が大幅に減少し、一方、「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合が大幅に増加しており、休日の過ごし方に大きな変化が見受けられる。

データ②：世代別×「問6 希望する平日と休日の過ごし方」

※無回答を除く

希望			働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
高齢者	(65歳以上)	平日	64	3	55	33	276	428	859
			7%	0%	6%	4%	32%	50%	
		休日	64	3	55	33	276	428	859
			7%	0%	6%	4%	32%	50%	
大人	(18歳以上65歳未満)	平日	443	8	173	15	127	198	964
			46%	1%	18%	2%	15%	23%	
		休日	18	3	10	14	518	388	951
			2%	0%	1%	1%	54%	41%	
子ども	(18歳未満)	平日	64	335	40	0	6	25	470
			14%	71%	9%	0%	1%	5%	
		休日	5	4	28	4	198	222	461
			1%	1%	6%	1%	43%	48%	

※無回答を除く

(参考) 平成28年度調査結果			仕事をする	学校に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	外出はほとんどしない	総計
高齢者	(65歳以上)	平日	90	3	154	23	462	161	893
			10%	0%	17%	3%	52%	18%	
		休日	9	2	28	7	538	256	840
			1%	0%	3%	1%	64%	30%	
大人	(18歳以上65歳未満)	平日	703	32	234	27	241	99	1,336
			53%	2%	18%	2%	18%	7%	
		休日	13	13	19	9	1066	207	1,327
			1%	1%	1%	1%	80%	16%	
子ども	(18歳未満)	平日	127	455	60	0	13	8	663
			19%	69%	9%	0%	2%	1%	
		休日	6	2	41	1	562	38	650
			1%	0%	6%	0%	86%	6%	

<データ②からわかること>

○全世代において、前回調査と比較すると、平日と休日ともに、「買い物・趣味・社会活動」を希望する人の割合は大幅に減少し、「生活している場所で過ごす（外出はほとんどしない）」を希望する人の割合が大幅に増加している。

○高齢者世代において、前回調査と比較すると、平日に「働く」および「通所施設に通う」を希望する人の割合は減少している。

<データ①とデータ②を比較してわかること>

○全世代において、前回調査よりも「買い物・趣味・社会活動」を希望する人の割合が減少してるが、希望通りの過ごし方ができていない人が一定数いる。

3. 様々な場面での困りごとについて

データ①：世代別×「問8 日常生活の中の困りごと」（回答は複数回答可）

		収入が 少ない	お金の 管理等	障がいや病気の 重度化	家族の 高齢化	家族との関係	近隣住民との 関係	相談できる ところ	同じ障がいや 病気の人との 交流	サービスの 不足	バリアフリー	移動の不便	スマホ等による 手続き	情報収集	総計
高齢者	(65歳以上)	303	53	151	185	23	11	45	19	29	81	144	254	53	1,351
		22%	4%	11%	14%	2%	1%	3%	1%	2%	6%	11%	19%	4%	
大人	(18歳以上65歳未満)	411	154	141	236	53	31	72	46	39	42	70	99	58	1,452
		28%	11%	10%	16%	4%	2%	5%	3%	3%	3%	5%	7%	4%	
子ども	(18歳未満)	33	53	32	43	10	4	23	50	74	48	76	28	49	523
		6%	10%	6%	8%	2%	1%	4%	10%	14%	9%	15%	5%	9%	

データ②：世代別×「問10 外出時の困りごと」（回答は複数回答可）

		段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
高齢者	(65歳以上)	142	175	171	193	43	93	287	172	52	1,328
		11%	13%	13%	15%	3%	7%	22%	13%	4%	
大人	(18歳以上65歳未満)	60	136	178	148	108	175	387	114	80	1,386
		4%	10%	13%	11%	8%	13%	28%	8%	6%	
子ども	(18歳未満)	44	129	112	102	63	98	100	31	45	724
		6%	18%	15%	14%	9%	14%	14%	4%	6%	

データ③：世代別×「問27 余暇活動の困りごと」（回答は複数回答可）

		金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報がない	その他	総計
高齢者	(65歳以上)	275	42	181	42	38	120	115	52	66	931
		30%	5%	19%	5%	4%	13%	12%	6%	7%	
大人	(18歳以上65歳未満)	408	103	116	49	90	253	181	38	79	1,317
		31%	8%	9%	4%	7%	19%	14%	3%	6%	
子ども	(18歳未満)	85	51	78	52	74	69	111	19	46	585
		15%	9%	13%	9%	13%	12%	19%	3%	8%	

<データ①からわかること>															
○日常生活の中での困りごととして、高齢者と大人世代では「収入が少ない」の回答が最も多く、次いで「家族の高齢化」、「障がいや病気の重度化」の回答が多かった。															
○子ども世代では、「移動の不便」、「サービスの不足」、「同じ障がいや病気の人との交流」の順に回答が多く、特に「サービスの不足」、「同じ障がいや病気の人との交流」については、他の世代と比べて回答割合が高かった。															
<データ②からわかること>															
○外出時の困りごととして、全世代に共通して「建物の設備が不便」、「通行車両が危ない」、「公共交通が利用しにくい」の回答が多く、大人と子ども世代は「手助けがない（お願いしにくい）」の回答割合が高い。															
○「困ることはない」と回答した人の割合は、高齢者と大人世代に比べて、子ども世代は低くなっている。															
<データ③からわかること>															
○余暇活動の困りごととして、全世代に共通して「金銭的な余裕のなさ」、「状態が不安定」、「友だちがいない」の回答が多く、高齢者と子ども世代は「移動手段の利用しにくさ」、子ども世代は「理解・配慮・手助けのなさ」の回答割合が高い。															

02■高齢の親と同居しているケースの状況とニーズについて

本人も高齢化が進んでおり、かつ、高齢の親と同居している状態にある者について、その状況とニーズを把握することを目的として、分析を行うこととする。「本人が40歳以上」で、「現在、親と同居しており、父親か母親のいずれかが70歳以上」の条件でデータを抽出し、元データとする。

※該当者 ⇒ 162人（身体：40人、知的：65人、精神：43人、難病：13人、発達1人）

分析にあたっては、以下の3つの観点から状況把握を行うとともに、「希望する暮らしに必要な支援」を明らかにする。

1. 障がいの状況に応じた困りごと

2. 外出の状況

3. 相談できる人の有無

1－1. 障がいの状況に応じた日常生活の困りごとについて

データ①：障がい種別×「問8 日常生活の中の困りごと」（回答は複数回答可）

	収入が 少ない	お金の 管理等	障がいや病気の 重度化	家族の 高齢化	家族との関係	近隣住民との 関係	相談できる ところ	同じ障がいや 病気の人との 交流	サービスの 不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等によ る手続き	情報収集	その他	総計
身体	13	4	10	25	0	0	1	1	1	1	5	3	0	2	66
	20%	6%	15%	38%	0%	0%	2%	2%	2%	2%	8%	5%	0%	3%	
知的	14	15	8	37	0	0	2	1	3	1	2	19	7	2	111
	13%	14%	7%	33%	0%	0%	2%	1%	3%	1%	2%	17%	6%	2%	
精神	20	3	1	24	2	1	3	2	1	0	2	4	2	2	67
	30%	4%	1%	36%	3%	1%	4%	3%	1%	0%	3%	6%	3%	3%	
難病	4	0	3	12	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	21
	19%	0%	14%	57%	0%	0%	0%	0%	5%	5%	0%	0%	0%	0%	
発達	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
総計	52	22	23	98	2	1	6	4	6	3	9	26	9	6	267
	19%	8%	9%	37%	1%	0%	2%	1%	2%	1%	3%	10%	3%	2%	

データ②：障がい種別ごとの手帳の等級×「問8 日常生活の中の困りごと」（回答は複数回答可）

身体	収入が 少ない	お金の 管理等	障がいや病気の 重度化	家族の 高齢化	家族との関係	近隣住民との 関係	相談できる ところ	同じ障がいや 病気の人との 交流	サービスの 不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等によ る手続き	情報収集	その他	総計
1 級	2	0	5	13	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	25
	8%	0%	20%	52%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	8%	4%	4%	0%	
2 級	7	3	7	15	0	1	1	2	3	0	2	3	1	1	46
	15%	7%	15%	33%	0%	2%	2%	4%	7%	0%	4%	7%	2%	2%	
3 級	2	1	2	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	14
	14%	7%	14%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	
4 級	3	1	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	10
	30%	10%	10%	20%	0%	0%	10%	0%	10%	0%	0%	0%	0%	10%	
5 級	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
	33%	0%	17%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	17%	0%	0%	
6 級	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	25%	0%	25%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
総計	17	5	17	41	0	1	2	2	4	1	6	5	2	2	105
	16%	5%	16%	39%	0%	1%	2%	2%	4%	1%	6%	5%	2%	2%	

知的	収入が 少ない	お金の 管理等	障がいや病気の 重度化	家族の 高齢化	家族との関係	近隣住民との 関係	相談できる ところ	同じ障がいや 病気の人との 交流	サービスの 不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等によ る手続き	情報収集	その他	総計
A	6	7	7	20	0	0	0	0	2	1	1	11	2	0	57
	11%	12%	12%	35%	0%	0%	0%	0%	4%	2%	2%	19%	4%	0%	
B1	4	1	1	7	0	0	1	0	1	0	0	5	3	2	25
	16%	4%	4%	28%	0%	0%	4%	0%	4%	0%	0%	20%	12%	8%	
B2	4	6	0	9	0	0	1	1	0	0	1	3	2	0	27
	15%	22%	0%	33%	0%	0%	4%	4%	0%	0%	4%	11%	7%	0%	
総計	14	14	8	36	0	0	2	1	3	1	2	19	7	2	109
	13%	13%	7%	33%	0%	0%	2%	1%	3%	1%	2%	17%	6%	2%	

※未回答を含む

精神	収入が 少ない	お金の 管理等	障がいや病気の 重度化	家族の 高齢化	家族との関係	近隣住民との 関係	相談できる ところ	同じ障がいや 病気の人との 交流	サービスの 不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等によ る手続き	情報収集	その他	総計
1 級	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	0%	33%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
2 級	12	2	1	10	0	1	2	1	1	0	1	2	0	1	34
	35%	6%	3%	29%	0%	3%	6%	3%	3%	0%	3%	6%	0%	3%	
3 級	4	0	0	6	2	0	0	0	0	0	1	0	1	1	15
	27%	0%	0%	40%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	0%	7%	7%	
精神通院 （手帳なし）	4	0	0	6	0	0	1	1	0	0	0	2	1	0	15
	27%	0%	0%	40%	0%	0%	7%	7%	0%	0%	0%	13%	7%	0%	
総計	20	3	1	24	2	1	3	2	1	0	2	4	2	2	67
	30%	4%	1%	36%	3%	1%	4%	3%	1%	0%	3%	6%	3%	3%	

※未回答を含む

<データ①・②からわかること>

- 全体では「家族の高齢化」と回答した人の割合が高く、次いで「収入が少ない」の割合が高かった。
- 身体障がい者手帳を所持している人では、障がい等級に関わらず、「障がいや病気の重度化」と回答した人の割合が高い傾向にある。
- 療育手帳を所持している人では、障がい等級に関わらず、「お金の管理等」「スマホ等による手続き」と回答した人の割合が高い傾向にある。
- 前回調査も同様の傾向にあった。

1－2．障がいの状況に応じた外出時及び余暇活動の困りごとについて

データ①：障がい種別×「問10 外出時の困りごと」（回答は複数回答可）

	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
身体	5	13	4	8	3	7	7	6	3	56
	9%	23%	7%	14%	5%	13%	13%	11%	5%	
知的	4	7	16	6	8	10	23	6	3	83
	5%	8%	19%	7%	10%	12%	28%	7%	4%	
精神	2	2	10	7	1	5	21	5	3	56
	4%	4%	18%	13%	2%	9%	38%	9%	5%	
難病	0	2	2	3	0	3	6	1	1	18
	0%	11%	11%	17%	0%	17%	33%	6%	6%	
発達	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	
総計	11	24	32	24	12	25	58	18	10	214
	5%	11%	15%	11%	6%	12%	27%	8%	5%	

データ②：障がい種別ごとの手帳の等級×「問10 外出時の困りごと」（回答は複数回答可）

	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
1 級	3	3	1	2	1	2	2	1	2	17
	18%	18%	6%	12%	6%	12%	12%	6%	12%	
2 級	1	8	2	4	0	1	1	4	0	21
	5%	38%	10%	19%	0%	5%	5%	19%	0%	
3 級	0	0	0	2	1	0	1	1	0	5
	0%	0%	0%	40%	20%	0%	20%	20%	0%	
4 級	0	1	1	0	1	2	1	0	1	7
	0%	14%	14%	0%	14%	29%	14%	0%	14%	
5 級	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4
	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	
6 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総計	4	12	4	8	3	7	7	6	3	54
	7%	22%	7%	15%	6%	13%	13%	11%	6%	

知的	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
A	1	4	6	5	8	5	7	5	1	42
	2%	10%	14%	12%	19%	12%	17%	12%	2%	
B1	2	0	6	0	0	1	6	0	1	16
	13%	0%	38%	0%	0%	6%	38%	0%	6%	
B2	1	2	4	1	0	4	10	1	1	24
	4%	8%	17%	4%	0%	17%	42%	4%	4%	
総計	4	6	16	6	8	10	23	6	3	82
	5%	7%	20%	7%	10%	12%	28%	7%	4%	

※未回答を含む

精神	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
1 級	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
	0%	0%	0%	33%	0%	0%	33%	33%	0%	
2 級	1	2	8	2	1	2	6	3	3	28
	4%	7%	29%	7%	4%	7%	21%	11%	11%	
3 級	1	0	1	1	0	1	6	1	0	11
	9%	0%	9%	9%	0%	9%	55%	9%	0%	
精神通院 （手帳なし）	0	0	1	3	0	2	8	0	0	14
	0%	0%	7%	21%	0%	14%	57%	0%	0%	
総計	2	2	10	7	1	5	21	5	3	56
	4%	4%	18%	13%	2%	9%	38%	9%	5%	

※未回答を含む

<データ①・②からわかること>

○外出時の困りごととして、前回調査と同様に、身体では「建物の設備が不便」、知的では「通行車両が危ない」と回答した人の割合が高い。

○身体障がい者手帳を所持している人では、1・2級などより重度の人ほど、「建物の設備が不便」「故郷交通が利用しにくい」と回答した人の割合が高い。

○療育手帳を所持している人では、前回調査と同様に、障がいの程度に関係なく、「通行車両が危ない」と回答した人の割合が高い傾向にある。

データ③：障がい種別×「問27 余暇活動の困りごと」（回答は複数回答可）

	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総計
身体	14	5	7	2	0	8	10	0	2	48
	29%	10%	15%	4%	0%	17%	21%	0%	4%	
知的	12	9	7	1	10	12	14	2	4	71
	17%	13%	10%	1%	14%	17%	20%	3%	6%	
精神	17	1	7	3	2	9	15	4	2	60
	28%	2%	12%	5%	3%	15%	25%	7%	3%	
難病	4	0	1	1	0	4	2	0	3	15
	27%	0%	7%	7%	0%	27%	13%	0%	20%	
発達	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	
総計	48	15	22	7	12	34	41	6	11	196
	24%	8%	11%	4%	6%	17%	21%	3%	6%	

データ④：障がい種別ごとの手帳の等級×「問27 余暇活動の困りごと」（回答は複数回答可）

身体	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総計
1級	3	4	2	0	0	2	4	0	1	16
	19%	25%	13%	0%	0%	13%	25%	0%	6%	
2級	5	1	4	2	0	4	1	0	1	18
	28%	6%	22%	11%	0%	22%	6%	0%	6%	
3級	1	0	1	0	0	0	2	0	0	4
	25%	0%	25%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	
4級	2	0	0	0	0	1	2	0	0	5
	40%	0%	0%	0%	0%	20%	40%	0%	0%	
5級	2	0	0	0	0	1	1	0	0	4
	50%	0%	0%	0%	0%	25%	25%	0%	0%	
6級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総計	13	5	7	2	0	8	10	0	2	47
	28%	11%	15%	4%	0%	17%	21%	0%	4%	

知的	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総計
A	5	8	5	1	6	3	3	0	1	32
	16%	25%	16%	3%	19%	9%	9%	0%	3%	
B 1	4	0	1	0	1	3	5	2	1	17
	24%	0%	6%	0%	6%	18%	29%	12%	6%	
B 2	3	1	1	0	3	6	6	0	1	21
	14%	5%	5%	0%	14%	29%	29%	0%	5%	
総計	12	9	7	1	10	12	14	2	3	70
	17%	13%	10%	1%	14%	17%	20%	3%	4%	

精神	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総計
1級	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
	0%	0%	0%	0%	0%	33%	67%	0%	0%	
2級	11	0	4	0	1	6	9	1	0	32
	34%	0%	13%	0%	3%	19%	28%	3%	0%	
3級	3	0	1	3	1	0	2	2	1	13
	23%	0%	8%	23%	8%	0%	15%	15%	8%	
精神通院 （手帳なし）	3	1	2	0	0	2	2	1	1	12
	25%	8%	17%	0%	0%	17%	17%	8%	8%	
総計	17	1	7	3	2	9	15	4	2	60
	28%	2%	12%	5%	3%	15%	25%	7%	3%	

<データ③・④からわかること>

○余暇活動の困りごととして、全体的に「金銭的な余裕のなさ」と回答した人の割合が高く、次いで「友だちがいない」「状態が不安定」の割合が高かった。

○身体障がい者手帳（1級）、療育手帳（A）の人は、「金銭的な余裕のなさ」に加えて、「介助や支援の不足」と回答した人の割合が高かった。

○精神の種別では、障がい等級に関わらず、「金銭的な余裕のなさ」に加えて、「友だちがいない」と回答した人の割合が高い。

2. 外出の状況について

データ①：「問5 現在の平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	50	1	43	3	13	43	153
	33%	1%	28%	2%	8%	28%	
休日	0	0	1	1	61	80	143
	0%	0%	1%	1%	43%	56%	

※無回答を除く

【参考】全数×「問5 今の平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	618	650	352	59	316	900	2,895
	21%	22%	12%	2%	11%	31%	
休日	27	20	84	39	880	1,718	2,768
	1%	1%	3%	1%	32%	62%	

※無回答を除く

データ②：「問6 希望する平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	50	1	35	3	22	33	144
	35%	1%	24%	2%	15%	23%	
休日	2	0	1	2	79	54	138
	1%	0%	1%	1%	57%	39%	

※無回答を除く

【参考】全数×「問6 希望する平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	733	519	305	49	432	722	2,760
	27%	19%	11%	2%	16%	26%	
休日	33	10	72	43	1,201	1,306	2,665
	1%	0%	3%	2%	45%	49%	

※無回答を除く

データ③：データ①で「生活している場所で過ごす」と回答した者の、「問8 日常生活の中の困りごと」の回答状況（抜粋）と「問10 外出時の困りごと」の回答状況

問8	収入が少ない	家族の高齢化	他の回答も含めた総数
身体	8	19	52
	15%	37%	
知的	7	18	49
	14%	37%	
精神	12	14	40
	30%	35%	
難病	3	8	14
	21%	57%	
発達	1	0	2
	50%	0%	
総計	31	59	157
	20%	38%	

問10	建物の設備が不便	通行車両が危ない	公共交通が利用しにくい	移動支援が使いにくい	手助けがない（お願いしにくい）	他の回答も含めた総数
身体	11	3	6	3	2	36
	31%	8%	17%	8%	6%	
知的	3	8	3	5	9	36
	8%	22%	8%	14%	25%	
精神	2	6	5	0	11	31
	6%	19%	16%	0%	35%	
難病	1	2	2	0	3	9
	11%	22%	22%	0%	33%	
発達	0	0	0	0	1	1
	0%	0%	0%	0%	100%	
総計	17	19	16	8	26	113
	15%	17%	14%	7%	23%	

<データ①・②・③からわかること>

○全数と高齢者の親と同居している障がい者を比較すると、今も希望も「買い物・趣味・社会活動」「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合に同様の傾向にあった。

○前回調査と比較すると、全数では今も希望も「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合が大幅に増加、「買い物・趣味・社会活動」と回答した人の割合が大幅に減少した傾向にあったが、高齢者の親と同居している障がい者は、その傾向は全数よりも小さい。

今の休日の過ごし方として、「買い物・趣味・社会活動」と回答した人は、前回48%から今回43%と減少幅は小さい。

今の平日の過ごし方として、「生活している場所で過ごす」と回答した人は、前回25%から28%と増加幅は小さい。

今の休日の過ごし方として、「生活している場所で過ごす」と回答した人は、前回48%から56%と増加幅は小さい。

○生活している場所で過ごすと回答した人は、日常生活の中の困りごととして、「収入が少ない」「家族の高齢化」と回答した割合が高い。

○また、外出時の困りごととして、身体では「建物の設備が不便」、他の障がい種別では「手助けがない（お願いしにくい）」と回答した人の割合が高い。

3. 相談できる人の有無について

データ①：障がい種別×「問25 悩みや心配事を相談する人」

	家族	友だち	ヘルパーや施設等職員	学校の先生・職場の人	相談機関	民生委員 児童委員	かかりつけ 医師・看護師	相談できる人がいない	わからない	統計
身体	27	12	6	0	1	0	6	2	2	54
	50%	22%	11%	0%	2%	0%	11%	4%	4%	
知的	45	2	19	2	8	0	8	5	13	89
	51%	2%	21%	2%	9%	0%	9%	6%	15%	
精神	29	7	7	0	2	0	12	7	2	64
	45%	11%	11%	0%	3%	0%	19%	11%	3%	
難病	8	5	1	0	0	0	4	1	0	19
	42%	26%	5%	0%	0%	0%	21%	5%	0%	
発達	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	
総計	109	26	33	2	12	0	30	15	17	227
	48%	11%	15%	1%	5%	0%	13%	7%	7%	

※無回答及び「その他」を除く

<データ①からわかること>

○前回調査と比較すると、同様に「家族」と回答した人が最も多く、半数程度を占めている。

○前回調査と比較すると、回答した人の割合が増加したのは「ヘルパーや施設等職員」（7%→15%）と「かかりつけ医師・看護師」（5%→13%）、減少したのは「相談できる人がいない」（15%→7%）となっている。

○精神では、家族以外の相談相手は様々である一方、「相談できる人がいない」と回答した人の割合はすべての種別で一番高い。

4. 希望する暮らしに必要な支援について

データ①：障がい種別×「問4 希望する暮らし」

	一人で暮らす	親・きょうだいと暮らす	配偶者・子どもと暮らす	友だちと暮らす	施設・病院で暮らす	その他	総計
身体	5	17	1	0	7	0	30
	17%	57%	3%	0%	23%	0%	
知的	7	26	1	0	7	4	45
	16%	58%	2%	0%	16%	9%	
精神	8	27	2	0	1	0	38
	21%	71%	5%	0%	3%	0%	
難病	2	11	0	0	0	0	13
	15%	85%	0%	0%	0%	0%	
発達	0	0	0	0	0	1	1
	0%	0%	0%	0%	0%	100%	
総計	22	81	4	0	15	5	127
	17%	64%	3%	0%	12%	4%	

※無回答除く

データ②：「問4 希望する暮らし」×「問9 希望する暮らしに必要なこと」（回答は複数回答可）

	グループホーム	障がいに配慮された住宅	入所施設	希望する暮らしの体験の場	日常生活の介助や支援の充実(十分なサービス)	日常生活の介助や支援の充実(お金に困らない)	お金の管理・法的手続きの支援	困りごとの相談	同じ障がいや病気の人との交流と相談	周囲の理解や配慮	特に必要なものは ない	総計
一人で暮らす	1	4	0	1	3	8	5	5	1	5	2	35
	3%	11%	0%	3%	9%	23%	14%	14%	3%	14%	6%	
親・きょうだいと暮らす	1	6	7	5	15	16	17	15	5	20	16	123
	1%	5%	6%	4%	12%	13%	14%	12%	4%	16%	13%	
配偶者・子どもと暮らす	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	8
	0%	13%	0%	13%	13%	13%	13%	13%	13%	0%	13%	
友だちと暮らす	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
施設・病院で暮らす	3	4	5	0	6	3	2	1	3	1	0	28
	11%	14%	18%	0%	21%	11%	7%	4%	11%	4%	0%	
その他	3	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	8
	38%	13%	38%	0%	0%	0%	0%	13%	0%	0%	0%	

<データ①・②からわかること>

○前回調査と比較すると、同様に「親・きょうだいと暮らす」と回答した人が最も多く、「一人で暮らす」「施設・病院で暮らす」の順に回答した人が多い。

○「一人で暮らす」「親・きょうだいと暮らす」と回答した人は、「日常生活の介助や支援の充実（十分なサービス・お金に困らない）」「お金の管理・法的手続きの支援」「困りごとの相談」「周囲の理解や配慮」など日常生活に関すること、「施設・病院で暮らす」と回答した人は、「グループホーム」「入所施設」「日常生活の介助や支援の充実（十分なサービス）」など支援に関することについて回答した人の割合が高い。

03■施設入所者の困りごととニーズについて

現在、施設に入所している障がい者について、その状況や困りごとを把握し、希望する暮らしと、そのためのニーズを把握することを目的として、分析を行うこととする。

まず、本調査の回答から、「今の住まいが入所施設で暮らしている」の条件でデータを抽出し、元データとする。

※該当者⇒70人（身体：19人、精神：7人、知的：44人、難病：0人、発達0人）

分析にあたっては、以下の2つの観点から状況把握を行うとともに、「希望する暮らしに必要な支援」を明らかにする。

1. 平日と休日の過ごし方

2. 様々な場面での困りごと

1. 平日と休日の過ごし方について

データ①：「問3 今の住まいが入所施設」×「問5 今の平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	5	6	6	4	2	45	68
	7%	9%	9%	6%	3%	66%	
休日	0	0	1	4	9	54	68
	0%	0%	1%	6%	13%	79%	

※無回答を除く

【参考】全数×「問5 今の平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	618	650	352	59	316	900	2,895
	21%	22%	12%	2%	11%	31%	
休日	27	20	84	39	880	1,718	2,768
	1%	1%	3%	1%	32%	62%	

※無回答を除く

データ②：「問3 今の住まいが入所施設」×「問6 希望する平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	5	7	5	4	10	31	62
	8%	11%	8%	6%	16%	50%	
休日	1	0	2	5	21	31	60
	2%	0%	3%	8%	35%	52%	

※無回答を除く

【参考】全数×「問6 希望する平日と休日の過ごし方」の回答状況

	働く	学校等に通う	通所施設に通う	病院で過ごす	買い物・趣味・社会活動	生活している場所で過ごす	総計
平日	733	519	305	49	432	722	2,760
	27%	19%	11%	2%	16%	26%	
休日	33	10	72	43	1,201	1,306	2,665
	1%	0%	3%	2%	45%	49%	

※無回答を除く

<データ①からわかること>

○全数と比較すると、平日に「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合はかなり高い。また、休日は「買い物・趣味・社会活動」と回答した人の割合が低い。

<データ②からわかること>

○全数と比較すると、平日と休日ともに「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合が高い。全数との違いとして、「生活している場所で過ごす」と回答した人の割合が平日と休日ともに同程度であった。

<データ①・②からわかること>

○全数と比較すると、休日に「買い物・趣味・社会活動」を希望する人の割合が低い。さらに、実際に「買い物・趣味・社会活動」を実現できている人の割合も低い。

2. 様々な場面での困りごとについて

データ①：障がい種別×「問8 日常生活の中の困りごと」（回答は複数回答可）

	収入が少ない	お金の管理等	障がいや病気の重度化	家族の高齢化	家族との関係	近隣住民との関係	相談できるところ	同じ障がいや病気の人との交流	サービスの不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等による手続き	情報収集	その他	総数
身体	4	1	4	3	1	0	0	0	1	2	3	2	2	3	26
	15%	4%	15%	12%	4%	0%	0%	0%	4%	8%	12%	8%	8%	12%	
知的	4	10	10	0	1	1	4	1	4	3	5	3	5	6	57
	7%	18%	18%	0%	2%	2%	7%	2%	7%	5%	9%	5%	9%	11%	
精神	4	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	12
	33%	17%	8%	0%	8%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	8%	8%	8%	
総計	12	13	15	3	3	1	4	2	5	5	8	6	8	10	95
	13%	14%	16%	3%	3%	1%	4%	2%	5%	5%	8%	6%	8%	11%	

【参考】全数×障がい種別×「問8 日常生活の中の困りごと」（回答は複数回答可）

	収入が少ない	お金の管理等	障がいや病気の重度化	家族の高齢化	家族との関係	近隣住民との関係	相談できるところ	同じ障がいや病気の人との交流	サービスの不足	バリアフリー	移動が不便	スマホ等による手続き	情報収集	その他	総計
身体	377	77	217	260	25	14	57	65	80	140	239	238	73	130	1,992
	19%	4%	11%	13%	1%	1%	3%	3%	4%	7%	12%	12%	4%	7%	
知的	145	159	49	142	18	11	43	37	64	25	60	91	68	61	973
	15%	16%	5%	15%	2%	1%	4%	4%	7%	3%	6%	9%	7%	6%	
精神	279	60	56	83	45	26	51	22	12	14	30	55	32	22	787
	35%	8%	7%	11%	6%	3%	6%	3%	2%	2%	4%	7%	4%	3%	
難病	49	1	40	27	6	1	12	5	5	10	21	18	7	15	217
	23%	0%	18%	12%	3%	0%	6%	2%	2%	5%	10%	8%	3%	7%	
発達	20	13	5	12	4	1	8	12	14	0	1	5	16	19	130
	15%	10%	4%	9%	3%	1%	6%	9%	11%	0%	1%	4%	12%	15%	
総計	870	310	367	524	98	53	171	141	175	189	351	407	196	247	4,099
	21%	8%	9%	13%	2%	1%	4%	3%	4%	5%	9%	10%	5%	6%	

<データ①からわかること>

○全数と比較すると、「家族の高齢化」や「収入が少ない」と回答した人の割合が低く、「お金の管理等」や「障がいや病気の重度化」と回答した人の割合が高くなっている。

データ②：障がい種別×「問10 外出時の困りごと」（回答は複数回答可）

	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総数
身体	5	1	3	3	1	2	2	6	2	25
	20%	4%	12%	12%	4%	8%	8%	24%	8%	
知的	4	6	6	9	13	8	9	7	4	66
	6%	9%	9%	14%	20%	12%	14%	11%	6%	
精神	1	0	2	0	0	0	2	3	0	8
	13%	0%	25%	0%	0%	0%	25%	38%	0%	
総計	10	7	11	12	14	10	13	16	6	99
	10%	7%	11%	12%	14%	10%	13%	16%	6%	

【参考】全数×障がい種別×「問10 外出時の困りごと」（回答は複数回答可）

	段差・ わかりにくい 信号や 点字ブロック	建物の設備 が不便	通行車両が 危ない	公共交通が 利用しにくい	移動支援が 使いにくい	手助けが ない（お願い しにくい）	困ることはな い	ほとんど外出 しない	その他	総計
身体	215	357	246	286	91	149	387	183	763	2,677
	8%	13%	9%	11%	3%	6%	14%	7%	29%	
知的	33	78	152	118	137	155	220	73	408	1,374
	2%	6%	11%	9%	10%	11%	16%	5%	30%	
精神	18	48	92	94	15	90	220	86	350	1,013
	2%	5%	9%	9%	1%	9%	22%	8%	35%	
難病	17	35	23	26	6	23	49	11	92	282
	6%	12%	8%	9%	2%	8%	17%	4%	33%	
発達	2	10	21	17	4	22	33	9	65	183
	1%	5%	11%	9%	2%	12%	18%	5%	36%	
総計	285	528	534	541	253	439	909	362	1,678	5,529
	5%	10%	10%	10%	5%	8%	16%	7%	30%	

データ③：障がい種別×「問27 余暇活動の困りごと」（回答は複数回答可）

	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総数
身体	1	3	1	0	0	2	3	3	3	16
	6%	19%	6%	0%	0%	13%	19%	19%	19%	
知的	5	11	4	6	5	6	13	0	11	61
	8%	18%	7%	10%	8%	10%	21%	0%	18%	
精神	2	1	0	0	0	0	1	0	0	4
	50%	25%	0%	0%	0%	0%	25%	0%	0%	
総計	8	15	5	6	5	8	17	3	14	81
	10%	19%	6%	7%	6%	10%	21%	4%	17%	

【参考】全数×障がい種別×「問27 余暇活動の困りごと」（回答は複数回答可）

	金銭的な 余裕のなさ	介助や支援 の不足	移動手段の 利用しにくさ	建物の設備 活動の環境	理解・配慮 手助けのなさ	状態が 不安定	友だちが いない	情報が ない	その他	総計
身体	386	103	256	111	100	163	186	65	97	1,467
	26%	7%	17%	8%	7%	11%	13%	4%	7%	
知的	169	118	91	31	99	126	150	35	69	888
	19%	13%	10%	3%	11%	14%	17%	4%	8%	
精神	282	8	56	15	21	202	106	20	30	740
	38%	1%	8%	2%	3%	27%	14%	3%	4%	
難病	43	4	28	8	11	22	14	6	17	153
	28%	3%	18%	5%	7%	14%	9%	4%	11%	
発達	29	4	11	3	21	19	30	3	12	132
	22%	3%	8%	2%	16%	14%	23%	2%	9%	
総計	909	237	442	168	252	532	486	129	225	3,380
	27%	7%	13%	5%	7%	16%	14%	4%	7%	

<データ②からわかること>
○外出時の困りごととして、全数と比較すると、身体・知的・精神では「ほとんど外出しない」と回答した人の割合が高い。
<データ③からわかること>
○余暇活動の困りごととして、全数と比較すると、身体・知的では「介護や支援の不足」、身体では「情報が
ない」と回答した人の割合が高い。

3. 希望する暮らしに必要なことについて

データ①：障がい種別×「問4 希望する暮らし」

	一人で暮らす	親・きょうだいと暮らす	配偶者・子どもと暮らす	友だちと暮らす	施設・病院で暮らす	その他	総計
身体	2	5	2	2	6	0	17
	12%	29%	12%	12%	35%	0%	
知的	1	5	0	3	30	2	41
	2%	12%	0%	7%	73%	5%	
精神	2	0	0	0	3	2	7
	29%	0%	0%	0%	43%	29%	
総計	5	10	2	5	39	4	65
	8%	15%	3%	8%	60%	6%	

【参考】全数×障がい種別×「問4 希望する暮らし」

	一人で暮らす	親・きょうだいと暮らす	配偶者・子どもと暮らす	友だちと暮らす	施設・病院で暮らす	その他	総計
身体	175	322	519	25	143	24	1,208
	14%	27%	43%	2%	12%	2%	
知的	98	331	32	31	111	48	651
	15%	51%	5%	5%	17%	7%	
精神	176	79	150	12	56	13	486
	36%	16%	31%	2%	12%	3%	
難病	33	21	70	1	9	4	138
	24%	15%	51%	1%	7%	3%	
発達	14	54	12	1	4	3	88
	16%	61%	14%	1%	5%	3%	
総計	496	807	783	70	323	92	2,571
	19%	31%	30%	3%	13%	4%	

※無回答除く

データ②：障がい種別×「問9 希望する暮らしに必要なこと」（回答は複数回答可）

	グループホーム	障がいに配慮された住宅	入所施設	希望する暮らしの体験の場	日常生活の介助や支援の充実(十分なサービス)	日常生活の介助や支援の充実(お金に困らない)	お金の管理・法的手続きの支援	困りごとの相談	同じ障がいや病気の人との交流と相談	周囲の理解や配慮	総計
身体	1	1	8	0	4	4	1	0	1	5	25
	4%	4%	32%	0%	16%	16%	4%	0%	4%	20%	
知的	7	4	7	4	15	8	3	2	1	10	61
	11%	7%	11%	7%	25%	13%	5%	3%	2%	16%	
精神	1	1	0	0	1	1	2	0	1	2	9
	11%	11%	0%	0%	11%	11%	22%	0%	11%	22%	
総計	9	6	15	4	20	13	6	2	3	17	95
	9%	6%	16%	4%	21%	14%	6%	2%	3%	18%	

<データ①からわかること>

○全数では、いずれの障がい種別においても「一人で暮らす」「親・きょうだいと暮らす」「配偶者・子どもと暮らす」と回答した人の割合が高い。

○知的では、他の種別に比べて、「配偶者・子どもと暮らす」と回答した人の割合が低く、「施設・病院で暮らす」と回答した人の割合が高い。

○今、入所施設で暮らしている人は、全体的に「施設・病院で暮らす」「親・きょうだいと暮らす」と回答した人の割合が高く、身体・知的では「親・きょうだいと暮らす」と回答した人の割合が次いで高い。

<データ②からわかること>

○全体的に「日常生活の介助や支援の充実（十分なサービス）」「日常生活の介助や支援の充実（お金に困らない）」と回答した人の割合が高く、前回調査と同様の傾向にある。

○また、「周囲の理解や配慮」と回答した人の割合は前回調査よりも高い傾向にある。

04■年齢、障がいの状態ごとの通院回数と、通院回数に応じた医療費の負担感について

地域で暮らす障がい者にとって、通院や、それに伴う医療費は重要な課題となっている。

そのため、以下の2つの観点から状況把握を行う。分析にあたっては、年齢を65歳以上と65歳未満に分類して整理するため、年齢について記載のなかった回答を除外したものを元データする。

1. 年齢、障がいの状態ごとの通院の状況

2. 通院の頻度と医療費の負担感

1. 年齢、障がいの状態ごとの通院の状況について

データ①：「問 2 年齢（65歳以上・未満）で整理」×「問23 通院回数」

	ほとんど毎日 通院している	週に2回から 3回程度	週に1回程度	月に2回から 3回程度	月に1回程度	年に 数回程度	入院している	通院 していない	総計
65歳以上	5	125	49	229	289	149	25	38	909
	1%	14%	5%	25%	32%	16%	3%	4%	
65歳未満	13	69	78	265	525	362	21	144	1,477
	1%	5%	5%	18%	36%	25%	1%	10%	

※無回答を除く

データ②：「問 2 年齢（65歳以上・未満）で整理」×障がい種別×「問23 通院回数」

		ほとんど毎日 通院している	週に2回から 3回程度	週に1回程度	月に2回から 3回程度	月に1回程度	年に 数回程度	入院している	通院 していない	総計
65歳 以上	身体	5	103	32	176	227	132	13	31	719
		1%	14%	4%	24%	32%	18%	2%	4%	
	知的	0	3	1	4	7	4	2	4	25
		0%	12%	4%	16%	28%	16%	8%	16%	
	精神	0	11	12	33	37	2	8	3	106
		0%	10%	11%	31%	35%	2%	8%	3%	
	難病	0	8	4	16	18	11	2	0	59
		0%	14%	7%	27%	31%	19%	3%	0%	
	発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
65歳 未満	身体	3	42	35	94	145	108	7	25	459
		1%	9%	8%	20%	32%	24%	2%	5%	
	知的	2	16	11	84	159	178	2	105	557
		0%	3%	2%	15%	29%	32%	0%	19%	
	精神	7	10	24	71	176	29	12	5	334
		2%	3%	7%	21%	53%	9%	4%	1%	
	難病	1	1	4	12	31	22	0	0	71
		1%	1%	6%	17%	44%	31%	0%	0%	
	発達	0	0	4	4	14	25	0	9	56
		0%	0%	7%	7%	25%	45%	0%	16%	

※無回答を除く

データ③：障がい種別・状態×「問23 通院回数」

	ほとんど毎日 通院している	週に2回から 3回程度	週に1回程度	月に2回から 3回程度	月に1回程度	年に 数回程度	入院している	通院 していない	総数
身体（1級）	5	86	25	147	153	90	20	20	546
	1%	16%	5%	27%	28%	16%	4%	4%	
身体（2級）	2	25	21	75	110	94	5	22	354
	1%	7%	6%	21%	31%	27%	1%	6%	
知的（A判定）	3	20	25	137	175	145	13	42	560
	1%	4%	4%	24%	31%	26%	2%	8%	
精神（1級）	1	12	3	10	16	5	5	5	57
	2%	21%	5%	18%	28%	9%	9%	9%	
精神（2級）	4	17	12	54	113	25	5	8	238
	2%	7%	5%	23%	47%	11%	2%	3%	
高次脳機能障がい	1	11	11	38	35	34	4	6	140
	1%	8%	8%	27%	25%	24%	3%	4%	
難病	1	10	9	35	56	35	2	1	149
	1%	7%	6%	23%	38%	23%	1%	1%	
発達障がい	0	2	4	6	20	38	0	24	94
	0%	2%	4%	6%	21%	40%	0%	26%	

※無回答を除く

通院者の 割合	通院が 月1回以上の 人の割合	通院が 週1回以上の 人の割合
96%	76%	21%
94%	66%	14%
93%	64%	9%
91%	74%	28%
97%	84%	14%
96%	69%	16%
99%	74%	13%
74%	34%	6%

<データ①からわかること>

○全体的に**65歳以上の方が65歳未満より、通院の頻度が高い**。

<データ②からわかること>

○**65歳以上の身体・難病**では、他の障がい種別に比べて、「**週に2回から3回程度**」と回答した人の割合が高い。

○**知的・発達**では、他の障がい種別に比べて、「**通院していない**」と回答した人の割合が高く、は**2**割弱となっている。

<データ③からわかること>

○**身体（1級）・精神（1級）、高次脳機能障がい**では、**2～3割程度の人が週に1回以上通院**している。

2. 通院の頻度と医療費の負担感について

データ①：「問23 通院回数」×「問8 日常生活の中の困りごと（「収入が少ない」と回答）」
「問23 通院回数」×「問27 余暇活動をする上での困りごと（「金銭的な余裕のなさ」と回答）」
「問23 通院回数」×「問16 1か月の収入（「働いてもらっているお金」または「障がい基礎年金や特別障がい者手当等のお金」のみと回答）」

	母数	(日常生活) 収入が 少ない	(余暇活動) 金銭的な 余裕のなさ	(収入) 労働収入 のみ	(収入) 年金・手当 のみ
ほとんど毎日 通院している	19	4	4	1	2
		21%	21%	5%	11%
週に2回から 3回程度	212	74	86	7	16
		35%	41%	3%	8%
週に1回程度	142	44	51	9	6
		31%	36%	6%	4%
月に2回から 3回程度	576	181	175	22	39
		31%	30%	4%	7%
月に1回程度	975	318	331	46	61
		33%	34%	5%	6%
年に数回	639	160	159	33	20
		25%	25%	5%	3%
入院している	53	9	14	2	6
		17%	26%	4%	11%
通院していない	241	55	67	16	10
		23%	28%	7%	4%
総計	2,857	845	887	136	160
		30%	31%	5%	6%

データ②：「問23 通院回数」×「問24 診察を受けるときの困りごと」（回答は複数回答可）

	母数	通院介助 の確保	施設が バリアフリー ではない	医師や看護師 の障がいや 病気の理解	障がいや病気の 特性に応じた 情報保障	医師や看護師 の説明が わからない	入院を 断られる	自宅での 医療が 受けにくい	医療費が高い	病院が 少ない・診察 を断られる
ほとんど毎日 通院している	19	2	1	3	1	1	1	1	1	1
		11%	5%	16%	5%	5%	5%	5%	5%	5%
週に2回から 3回程度	212	17	5	10	7	6	0	4	17	8
		8%	2%	5%	3%	3%	0%	2%	8%	4%
週に1回程度	142	16	3	6	9	7	3	4	20	9
		11%	2%	4%	6%	5%	2%	3%	14%	6%
月に2回から 3回程度	576	72	25	31	34	40	8	9	62	30
		13%	4%	5%	6%	7%	1%	2%	11%	5%
月に1回程度	975	72	19	50	41	64	11	30	92	64
		7%	2%	5%	4%	7%	1%	3%	9%	7%
年に数回	639	41	12	42	24	40	10	5	46	63
		6%	2%	7%	4%	6%	2%	1%	7%	10%
入院している	53	9	0	0	1	2	1	2	2	4
		17%	0%	0%	2%	4%	2%	4%	4%	8%
通院していない	241	13	3	13	12	22	2	1	13	16
		5%	1%	5%	5%	9%	1%	0%	5%	7%
総計	2,857	242	68	155	129	182	36	56	253	195
		8%	2%	5%	5%	6%	1%	2%	9%	7%

- <データ①・②からわかること>
- 通院頻度に関係なく、日常生活や余暇活動をする上での困りごととして、「収入が少ない」「金銭的な余裕のなさ」といった経済的な負担感を感じている人の割合は高い。
 - 通院頻度と収入に関する相関関係は見られなかった。
 - 診察を受けるときの困りごととして、ほとんど毎日通院している人は、「通院介助の確保」「医師や看護師の障がいや病気の理解」と回答した人の割合が高い。
 - 全体として、「医療費が高い」と回答した人の割合が高いが、「週に1回程度」「月に2から3回程度」の通院頻度において、その割合が高かった。

05■障がい種別、障がいの状態ごとの災害時の困りごとについて

災害時の困りごとについては、各障がい種別ごとの様々な状態像ごとに、適切に把握しなければならない。

そこで、「問28 災害時の困りごと」、「問29 災害時のために準備できていること」の回答について、身体障がい、知的障がい、精神障がいの手帳等級ごとの回答状況について集計するとともに、発達障がい、高次脳機能障がい、難病ごとの回答状況についても集計し、その特徴を捉える。

※以下の各集計表で「避難所での生活」の「ハード面」とは建物の構造・設備・個室がない等、「ソフト面」とは周囲の理解、コミュニケーション、介護等を意味します。

1. 災害時の困りごとについて

データ①：障がい種別ごとの手帳の等級×「問28 災害時の困りごと」（回答は複数回答可）

身体	災害情報の取得	安全な場所への移動	避難所での生活 (ハード面)	避難所での生活 (ソフト面)	福祉避難所が少ない・ 情報がない	医療的ケア・ 医薬品の提供 や情報	避難訓練など 事前準備が できない	総計
1級 (472)	32 4%	302 42%	68 9%	49 7%	144 20%	119 16%	44 6%	726
2級 (277)	39 8%	193 41%	42 9%	64 14%	86 18%	42 9%	43 9%	470
3級 (173)	20 8%	73 31%	29 12%	23 10%	45 19%	53 22%	16 7%	239
4級 (251)	22 7%	90 31%	37 13%	28 9%	53 18%	57 19%	30 10%	295
5級 (81)	6 7%	22 27%	15 18%	8 10%	19 23%	7 9%	11 13%	82
6級 (66)	7 16%	5 11%	8 18%	9 20%	15 33%	8 18%	0 0%	45
総計	126 7%	685 37%	199 11%	181 10%	362 19%	286 15%	144 8%	1,857

【参考】身体障がいの各分類×「問28 災害時の困りごと」（回答は複数回答可）

身体	災害情報の取得	安全な場所への移動	避難所での生活 (ハード面)	避難所での生活 (ソフト面)	福祉避難所が少ない・ 情報がない	医療的ケア・ 医薬品の提供 や情報	避難訓練など 事前準備が できない	総計
視覚障がい	11 7%	67 44%	13 9%	12 8%	24 16%	13 9%	11 7%	151
聴覚障がい・ 平衡機能障がい	34 17%	68 33%	9 4%	24 12%	35 17%	13 6%	20 10%	203
音声・言語・ そしゃく機能障がい	7 5%	53 38%	9 6%	22 16%	31 22%	14 10%	4 3%	140
肢体不自由	45 4%	456 38%	140 12%	112 9%	224 19%	129 11%	88 7%	1,194
内部障がい	26 5%	144 28%	44 9%	29 6%	99 19%	131 26%	38 7%	511

知的	災害情報の取得	安全な場所への移動	避難所での生活 (ハード面)	避難所での生活 (ソフト面)	福祉避難所が少ない・ 情報がない	医療的ケア・ 医薬品の提供 や情報	避難訓練など 事前準備が できない	総計
A (336)	26 3%	378 43%	80 9%	162 18%	169 19%	69 8%	23 3%	881
B 1 (159)	20 9%	78 35%	17 8%	52 23%	36 16%	20 9%	20 9%	223
B 2 (216)	30 10%	106 35%	32 10%	59 19%	54 18%	23 8%	32 10%	306
総計	76 5%	562 40%	129 9%	273 19%	259 18%	112 8%	75 5%	1,410

精神	災害情報の取得	安全な場所への移動	避難所での生活 (ハード面)	避難所での生活 (ソフト面)	福祉避難所が少ない・ 情報がない	医療的ケア・ 医薬品の提供 や情報	避難訓練など 事前準備が できない	総計
1級 (61)	3 4%	26 35%	12 16%	8 11%	10 14%	11 15%	7 9%	74
2級 (247)	29 11%	63 23%	31 12%	39 14%	55 20%	29 11%	52 19%	269
3級 (159)	18 9%	27 14%	33 17%	37 19%	42 21%	31 16%	27 14%	197
精神通院（手帳なし） (292)	34 11%	39 13%	42 14%	54 17%	54 17%	60 19%	60 19%	309
総計	84 10%	155 18%	118 14%	138 16%	161 19%	131 15%	146 17%	849

データ②：「問38 発達障がいの診断」×「問28 災害時の困りごと」（回答は複数回答可）
「問39 高次脳機能障がいの診断」×「問28 災害時の困りごと」（回答は複数回答可）
「問40 難病」×「問28 災害時の困りごと」（回答は複数回答可）

	災害情報 の取得	安全な場所 への移動	避難所での 生活 (ハード面)	避難所での 生活 (ソフト面)	福祉避難所 が少ない・ 情報がない	医療的ケア・ 医薬品の提供 や情報	避難訓練など 事前準備が できない	総計
自閉スペクトラム症 (375)	25	165	60	158	113	20	28	544
	5%	30%	11%	29%	21%	4%	5%	
注意欠陥多動性障がい (170)	20	51	29	51	46	18	14	209
	10%	24%	14%	24%	22%	9%	7%	
学習障がい (81)	8	30	10	16	21	9	9	95
	8%	32%	11%	17%	22%	9%	9%	
高次脳機能障がい (132)	14	70	18	22	38	17	14	179
	8%	39%	10%	12%	21%	9%	8%	
難病 (597)	36	268	74	75	157	176	50	836
	4%	32%	9%	9%	19%	21%	6%	

<データ①・②からわかること>
○**全体的に「安全な場所への移動」と回答した人の割合が高い。**特に、身体（１・２級）、知的、精神（１級）、高次脳機能障がい、難病の種別においては、３分の１以上の人が「安全な場所への移動」を災害時の困りごととして捉えている。
○身体 の各分類を比較すると、**聴覚障がい・平衡機能障がいでは「災害情報の取得」、音声・言語・そしゃく機能障がいでは「避難所での生活（ソフト面）」、内部障がいでは「医療的ケア・医薬品の提供や情報」と回答した人の割合が高い。「安全な場所への移動」と回答した人の割合は、視覚障がいが一番高い。**
○**知的、発達**では、次に「避難所での生活（ソフト面）」と回答した人の割合が高く、**周囲の理解や特性に対する配慮等のソフト面**を困りごととして捉える傾向にある。
○**高次脳機能障がい**では、次に「福祉避難所が少ない・情報がない」と回答した人の割合が高い。
○**難病**では、次に「医療的ケア・医薬品の提供や情報」と回答した人の割合が高い。

2. 災害のために準備できていること

データ①：障がい種別ごとの手帳の等級×「問29 災害時のために準備できていること」（回答は複数回答可）

身体	防災 グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できていない	総計
1級 (472)	175	111	58	108	62	16	18	109	657
	27%	17%	9%	16%	9%	2%	3%	17%	
2級 (277)	108	61	35	71	22	5	5	82	389
	28%	16%	9%	18%	6%	1%	1%	21%	
3級 (173)	73	32	19	42	9	1	6	41	223
	33%	14%	9%	19%	4%	0%	3%	18%	
4級 (251)	86	28	17	71	6	1	9	43	261
	33%	11%	7%	27%	2%	0%	3%	16%	
5級 (81)	24	8	3	15	0	0	1	14	65
	37%	12%	5%	23%	0%	0%	2%	22%	
6級 (66)	29	6	8	14	0	1	2	12	72
	40%	8%	11%	19%	0%	1%	3%	17%	
総計	495	246	140	321	99	24	41	301	1,667
	30%	15%	8%	19%	6%	1%	2%	18%	

知的	防災 グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できていない	総計
A (336)	207	120	100	110	85	16	22	112	772
	27%	16%	13%	14%	11%	2%	3%	15%	
B 1 (159)	59	9	19	38	3	0	5	39	172
	34%	5%	11%	22%	2%	0%	3%	23%	
B 2 (216)	103	12	33	57	4	2	6	68	285
	36%	4%	12%	20%	1%	1%	2%	24%	
総計	369	141	152	205	92	18	33	219	1,229
	30%	11%	12%	17%	7%	1%	3%	18%	

精神	防災 グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できていない	総計
1級 (61)	6	4	3	5	4	1	1	16	40
	15%	10%	8%	13%	10%	3%	3%	40%	
2級 (247)	63	24	17	45	6	3	5	82	245
	26%	10%	7%	18%	2%	1%	2%	33%	
3級 (159)	34	8	9	33	6	0	1	62	153
	22%	5%	6%	22%	4%	0%	1%	41%	
精神通院（手帳なし） (292)	85	25	21	49	3	0	8	82	273
	31%	9%	8%	18%	1%	0%	3%	30%	
総計	188	61	50	132	19	4	15	242	711
	26%	9%	7%	19%	3%	1%	2%	34%	

データ②：「問38 発達障がいの診断」×「問29 災害時のために準備できていること」（回答は複数回答可）

「問39 高次脳機能障がいの診断」×「問29 災害時のために準備できていること」（回答は複数回答可）

「問40 難病」×「問29 災害時のために準備できていること」（回答は複数回答可）

	防災 グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できていない	総計
自閉スペクトラム症 (375)	148	25	53	88	22	2	11	95	444
	33%	6%	12%	20%	5%	0%	2%	21%	
注意欠陥多動性障がい (170)	65	16	19	40	8	3	5	44	200
	33%	8%	10%	20%	4%	2%	3%	22%	
学習障がい (81)	31	7	8	16	3	2	1	15	83
	37%	8%	10%	19%	4%	2%	1%	18%	
高次脳機能障がい (132)	35	22	12	26	8	4	0	34	141
	25%	16%	9%	18%	6%	3%	0%	24%	
難病 (597)	217	148	61	126	46	11	15	107	731
	30%	20%	8%	17%	6%	2%	2%	15%	

<データ①・②からわかること>
○いづれの障がい種別においても、「防災グッズ」「避難場所の確認」と回答した人の割合が高い。
○身体（1・2・3級）、知的（A）の人は、「医薬品・医療機器」と回答した人の割合が高い。
○いづれの障がい種別においても、重度の人ほど「要援護者登録」と回答した人の割合が高い。一方、「個別避難計画の作成」と回答した人の割合はかなり低かった。
○精神では、他の障がい種別に比べて、「準備できていない」と回答した人の割合が高かった。

3. 災害のために今後準備したいこと

データ①：障がい種別ごとの手帳の等級×「問29 災害時のために今後準備したいこと」（回答は複数回答可）

身体	防災グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できない	総計
1級 (472)	140 23%	117 19%	110 18%	65 11%	54 9%	41 7%	43 7%	31 5%	601
2級 (277)	83 23%	49 14%	64 18%	51 14%	38 11%	18 5%	28 8%	27 8%	358
3級 (173)	51 27%	31 17%	35 19%	22 12%	19 10%	8 4%	13 7%	8 4%	187
4級 (251)	63 28%	30 13%	44 20%	37 16%	15 7%	7 3%	21 9%	8 4%	225
5級 (81)	23 37%	7 11%	9 14%	11 17%	1 2%	1 2%	3 5%	8 13%	63
6級 (66)	11 17%	8 13%	11 17%	14 22%	6 10%	4 6%	4 6%	5 8%	63
総計	371 25%	242 16%	273 18%	200 13%	133 9%	79 5%	112 7%	87 6%	1,497

知的	防災グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できない	総計
A (336)	141 20%	100 14%	152 22%	93 13%	68 10%	60 9%	51 7%	31 4%	696
B 1 (159)	47 30%	14 9%	34 22%	34 22%	13 8%	3 2%	8 5%	5 3%	158
B 2 (216)	77 25%	25 8%	71 23%	66 21%	21 7%	12 4%	30 10%	10 3%	312
総計	265 23%	139 12%	257 22%	193 17%	102 9%	75 6%	89 8%	46 4%	1,166

精神	防災グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できていない	総計
1級 (61)	18 33%	12 22%	8 15%	9 16%	2 4%	1 2%	1 2%	4 7%	55
2級 (247)	66 26%	37 15%	41 16%	48 19%	11 4%	8 3%	17 7%	23 9%	251
3級 (159)	59 35%	26 15%	26 15%	27 16%	6 4%	2 1%	9 5%	14 8%	169
精神通院（手帳なし） (292)	90 32%	37 13%	57 21%	42 15%	14 5%	6 2%	17 6%	15 5%	278
総計	233 31%	112 15%	132 18%	126 17%	33 4%	17 2%	44 6%	56 7%	753

データ②：「問38 発達障がいの診断」×「問29 災害時のために今後準備したいこと」（回答は複数回答可）

「問39 高次脳機能障がいの診断」×「問29 災害時のために今後準備したいこと」（回答は複数回答可）

「問40 難病」×「問29 災害時のために今後準備したいこと」（回答は複数回答可）

	防災グッズ	医薬品・医療機器	避難行動の 打ち合わせ	避難場所の 確認	要援護者登録	個別避難計画 の作成	防災訓練への 参加	準備 できない	総計
自閉スペクトラム症 (375)	97 21%	42 9%	115 25%	93 20%	41 9%	27 6%	25 5%	22 5%	462
注意欠陥多動性障がい (170)	48 24%	26 13%	52 25%	25 12%	14 7%	9 4%	17 8%	13 6%	204
学習障がい (81)	12 16%	10 13%	17 22%	15 19%	6 8%	2 3%	11 14%	4 5%	77
高次脳機能障がい (132)	33 26%	19 15%	28 22%	14 11%	16 13%	6 5%	6 5%	4 3%	126
難病 (597)	145 22%	124 19%	125 19%	92 14%	63 10%	33 5%	41 6%	30 5%	653

<データ①・②からわかること>
○いづれの障がい種別においても、「防災グッズ」「医薬品・医療機器」「避難行動の打ち合わせ」「避難場所の確認」と主にご自身で取り組める準備について回答された人の割合が高い傾向にあった。

06■暮らし全体を通じての差別やいやな思いの経験について

「問３２ 差別やいやな思いの経験」について、日々の暮らしを通じて、障がい者が最も多く経験する差別やいやな思いを把握するため、場所ごとの回答を一本化し、項目ごとに集計する。

データ①：「問３２ 差別やいやな思いの経験」の場所ごとの回答を一本化し、再集計。（回答は複数回答可）

	学校	職場・仕事	病院・福祉施設	お店	電車・バス	住居・住まい	近所づきあい	役所	総計
無視される、仲間外れにされる	331	134	28	21	13	34	52	12	625
じろじろ見られたり指をさされる	192	60	157	342	325	70	181	62	1,389
子ども扱いされる	39	27	29	20	9	27	32	17	200
助けてほしい時に助けてもらえない	170	167	140	89	126	77	62	13	844
入居・入店・乗車などを拒否される	14	6	17	51	16	19	4	2	129
総計	746	394	371	523	489	227	331	106	3,187

（参考）平成28年度調査結果	学校	職場・仕事	病院・福祉施設	お店	電車・バス	住居・住まい	近所づきあい	役所	総計
無視される、仲間外れにされる	346	99	16	15	8	23	66	8	581
じろじろ見られたり指をさされる	142	39	182	369	397	73	206	68	1476
子ども扱いされる	41	22	27	17	5	38	16	16	182
助けてほしい時に助けてもらえない	112	145	101	66	116	51	45	105	741
入居・入店・乗車などを拒否される	0	5	16	35	19	15	2	3	95
総計	641	310	342	502	545	200	335	200	3075

<データ①からわかること>

○全体的に「じろじろ見られたり指をさされる」と回答した人が多い。

○学校や職場・仕事において、「無視される、仲間外れにされる」と回答した人が多い。

○職場・仕事、住居・住まいにおいて、「助けてほしい時に助けてもらえない」と回答した人が最も多い。

○概ね前回調査と同様の傾向にあるが、学校において、「入居・入店・電車などを拒否される」（学校の場合は、何等かの学習機会が損なわれるということが想定される）と回答した人がある。また、役所において「助けてほしい時に助けてもらえない」と回答した人は大きく減少している。